

武庫川女子大学 言語文化研究所年報

第 15 号

2003

MUKOGAWA WOMEN'S UNIVERSITY
ANNUAL REPORT
OF
RESEARCH INSTITUTE FOR LINGUISTIC
CULTURAL STUDIES

Vol. 15

DEC, 2004

Contents

What can be Seen from Modern Japanese

Hideo Satake
Chiaki Kishimoto

武庫川女子大学

言語文化研究所年報

第十五号

二

三

武庫川女子大学 言語文化研究所年報 第 15 号

目 次

言語文化研究所の活動の概要	1
現代のことばから見えてくるもの	佐竹 秀雄 5 岸本 千秋
ジェンダーとことば	
女から見たおんなのことわざ	6
いまどきの女らしさ	11
女vs.男 いまどきの女らしさPart ～具体例編～	16
ことば 女と男のあいだ	21
雑誌とことば	
2001年オナナのファッション 春を彩るキーワード	27
食のことば	33
料理の名付け ～食のことばPart ～	40
その他	
だれに使うの？なぜ使うの？女子大生ことば	46
ことばにまつわる笑い話	51
ことわざ好きのことわざ意識	57

言語文化研究所活動の概要

1．2003年度の調査研究

(1) マスコミ報道の表現と表記に関する調査研究

この研究の目的は、マスコミ報道で使われていることばを調査することによって、日本語における問題点を探ることにある。マスコミで使われることばは、一面では一般の日本語の姿を映すと同時に、また、一般に対する影響力も大きい。マスコミにおける言語使用の実態を調査研究することによって、日本語の現状を考える基礎データを得ようとするものである。

今年度は、昨年度に引き続き食の雑誌を調査した。「料理名とことば」をテーマにして、料理名がどのような名づけをされているのか、という視点で調査分析を行った。その結果については、LCリぼーと17号で「料理名の名付け 食のことばPart Ⅰ」というタイトルで報告した。

2．2003年度の刊行物等

(1) 言語文化研究所年報第14号

前年度（2002年度）における研究成果の報告として、以下の論文・資料を掲載して刊行した。

岸本千秋：ネット日記作者の言語行動と言語意識

- アンケート調査の結果から -

姜 昌妊：日韓語話者の男女言葉づかいに関する意識

市川真文：言語経験主義におけるメディア利用

メディアから見た国語教育史 3

佐竹秀雄：[資料]新聞投書欄の語彙

1999年の新聞 3 紙を資料として

(2) 研究レポート（LCリぼーと）17号・18号

2003年度において、食の雑誌をもとにしてのことばの調査結果と、新聞

経済面の外来語の調査結果とを報告した。各号のタイトルと内容は、次の通り。

第17号：料理の名付け 食のことはPart

食の雑誌 2 種類を調査材料とした。『dancyu』 6 か月分（2003年 1 月～ 6 月）と、『月刊専門料理』 6 か月分（2002年 1 月、2 月、8 月、2003年 2 月～ 4 月）計12か月分から資料を集めた。それぞれに掲載された内容のうち、料理写真のキャプションとして示されている料理名を調査データとし、料理名に使用される文字数とその構造パターンとの 2 点をおもな分析の視点とした。洋食の料理名には文字数が多く用いられる傾向にあり、最大のものは71文字であった。他方、和食の料理名の文字数は少ない傾向にある。また、料理名の構造パターンを大まかに 5 分類した。この分析からも、洋食には凝った料理名が多く使われており、和食では、比較的単純な料理名が多いことが明らかになった。

第18号：新聞経済面の外来語～新聞 4 紙を資料として～

朝日・毎日・読売・日本経済の新聞 4 紙（各大阪本社発行）の経済面を調査材料として語彙調査を行い、どのような外来語が使用されているのかについて報告した。データは、2000年 1 月～12月の休刊日を除くすべての日の朝刊から各 5 文を無作為抽出したものをを用いた。まず、新聞間を比較してみると、異なり語数、述べ語数、1 文あたりの外来語数いずれをとっても、読売新聞が一番多く、反対に日経新聞がもっとも少ない結果であった。4 紙を総合した語彙表を見てみると、「インターネット」「パソコン」などが上位にランクインしており、経済がIT関連の語を抜きにしては語れないことを示していることが分かった。また、今の経済がいまだにバブルにかかわった内容であることや、アメリカからの影響を大きく受けていることなどが明らかになった。

3．言語文化セミナーの開催

2003年11月14日（金）午後2時40分から、本学MM館508教室において開催した。講師として、読売テレビアナウンサーの道浦俊彦氏を迎え、「平成カタカナことば事情」というタイトルでお話いただいた。

まず、カタカナに関する問題を、（１）表記・発音の問題、（２）アクセントの問題、（３）意味がわからないという問題、（４）その他の四つに分類し、この中でも圧倒的に（１）表記・発音の問題に関するものが多いということを示された。次に、「なぜ、カタカナ言葉は嫌われるのか」という点に関しては、意味が分かりにくいからだとされ、「なぜ、カタカナ言葉は使われるのか」については、新しい感じがすること、日本にない概念の言葉をそのまま表記できること、かっこいいことなどを理由として挙げられた。そして、「カタカナ語は増えているのか」という点については、読売新聞の１年ごとのデータを示され、新聞紙上ではそれほど増えていないことを指摘された。その理由については、まず、新しい語が現れてはすぐに消える「足の速さ」が、「カタカナ語は増えている」というイメージを与えているのではないかと述べられた。

以上のような内容を、時には放送現場の経験を交えながら楽しくお話しくださり、盛会のうちに幕を閉じた。学外からは、日本語研究者、LC倶楽部会員など30名近くの参加があった。

4．科学研究費補助金による研究

2001年度「日常語化した専門語（新語）の語彙的構造の研究」（基盤研究〔C〕）というテーマで、科学研究費補助金を得た。

この研究は、新聞の投書欄の語彙を対象として、一般の現代人が日常生活で必要としている語彙に、どのような専門語が流入しどのような語彙変化が見られるかを分析することを目的とするものであった。

近年、さまざまな分野の専門語が日常生活に入りこむ「専門語の日常語化」現象が見られる。そこで、まず、多くの話題が取り上げられる新聞の投書欄

の語彙調査を行い、高頻度語を中心にキーワードとなる語彙を求めた。その結果、外来語に多くの専門語が存在することが明らかになったので、外来語を中心に専門語の分析を行った。

昨年度は、最終年度であったので、投書欄の語彙についての分析などを行い、研究成果報告書を作成した。

なお、研究メンバーは次のとおりである。

研究代表者：佐竹 秀雄

研究協力者：岸本 千秋

5．事務報告

(1) 組織

所 長：佐竹 秀雄（文学部日本語日本文学科教授）

研究員：西崎 亨（文学部日本語日本文学科教授）

研究員：市川 真文（文学部日本語日本文学科教授）

研究員：加賀 元子（文学部日本語日本文学科助教授）

助 手：岸本 千秋（言語文化研究所非常勤助手）

(2) その他

1998年9月及び2002年11月に本学で行われたことわざ研究会によることわざフォーラムの運営に本研究所は協力した。それ以降、不定期ではあるが、関西ことわざ研究会を研究所で開いている。

現代のことばから見えてくるもの

佐 竹 秀 雄
岸 本 千 秋

ことばは社会を映す鏡だとよく言われる。研究所では、ここ10年にわたり、ことばを分析することで社会のありようの一端を明らかにしようと試みてきている。1994年度の創刊以来、年2回のペースで発行を続けている「LCりぽーと」がその一つであり、これは、日本語研究者やマスコミなどに向けて、ことばに関する話題を提供するという役目も担っている。

「LCりぽーと」は、B4用紙二つ折の表と裏に、ことばのもつ面白さや、ことばに対する人々の意識などを盛り込んで学内外に発信してきたリーフレットである。過去、「LCりぽーと」に取り上げた題材はさまざまであるが、今回改めて見直して、それらを大きなテーマごとにまとめた。

すなわち、社会的性差とことばとを関連付けて考えたものを、「ジェンダーとことば」として、新聞や雑誌のことばを扱ったものを、「マスコミとことば」として、また、漢字や敬語など学校教育とも関連するものを、「教育とことば」としてまとめたのである。

本号では、これらのうち、「ジェンダーとことば」、マスコミの中でも「雑誌とことば」の2つのテーマに沿ったレポート7本と、その他として、「女子大生ことば」「ことばにまつわる笑い話」「ことわざ好きのことわざ意識」の3本、計10本を掲載する。そして、「LCりぽーと」創刊10周年とともに、言語文化研究所開設15周年の記念とする。

【ジェンダーとことば】

女から見た女のことわざ

(LCりぼーと1 1994年7月)

「女心と秋の空」 あなたは、使う？使わない？」のように、女性に関することわざばかりを集めて、「あなたは、肯定派？否定派？」とアンケート調査を実施した。対象者は武庫川女子大学の学生519人。

それぞれのことわざについて

...その通りだと思う

...そうは思わない

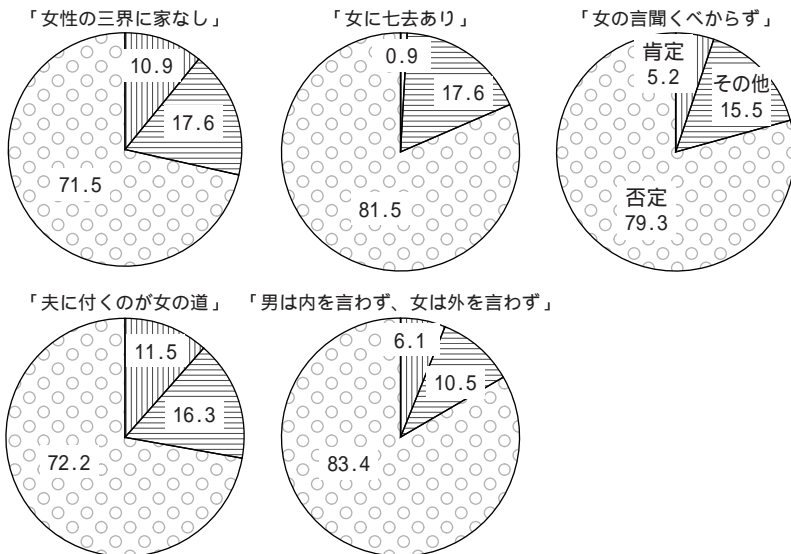
...何とも思わない

...よく使う

...使いたくない

図1 Aグループ：女性のあるべき姿を型にはめているもの / 女性の人格を否定しているもの

(単位%)



の5つの選択肢の中から、一つか二つ選んで回答してもらった。回答のうち、
・ は「肯定派」、・ は「否定派」として、その調査結果を図1から
図3のグラフに表した。

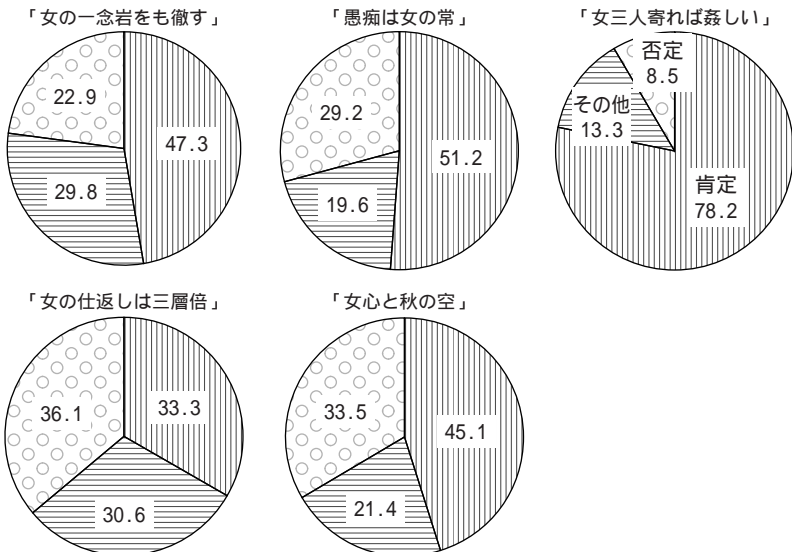
図1に示したAグループのことわざは、女性の人格を否定しているともいえることわざである。これらに対しては、否定的な回答をした者が圧倒的に多い。

「女の言聞くべからず」を除く他の4つのことわざは、「夫に従うのが女として当然のことである」という色合いが強く出ている。「女性（妻）としての一個の人格はなく、夫に付随した存在でしかない」という、非常に封建的な意味を表している。調査対象者である女子大学生が、これらのことわざに拒否反応を示すのは、ごく当然のことだろう。

また、これらは普段あまり使われないことわざである。理由は、言うまでもなく、時代に逆行した、非現実的なものだからである。そして、使われなくなったことが、女子大生たちにそれらのことわざへの親しみをなくし、ことわざを支持する回答をより少なくしたとも考えられる。

図2 Bグループ：女性の性格をいっているもの

(単位%)



つまり、“時代に逆行していることわざ”は“使われないことわざ”であり、また同時に“女性に受け入れられないことわざ”でもある。

次に、Bグループのことわざとして、女性の性格・性質について述べたものを示した。(図2)これらのことわざは、どちらかというと、良い性格・性質というよりは、困る性格・性質を述べたものである。しかし、どのことわざも、肯定している割合が高い。「女三人寄れば…」では、80%近くが、その通りだと思ったり、よく使ったりしている。また、Bグループの中で肯定している割合が一番低いのは「女の仕返しは…」であるが、それでも30%強の数字を示している。

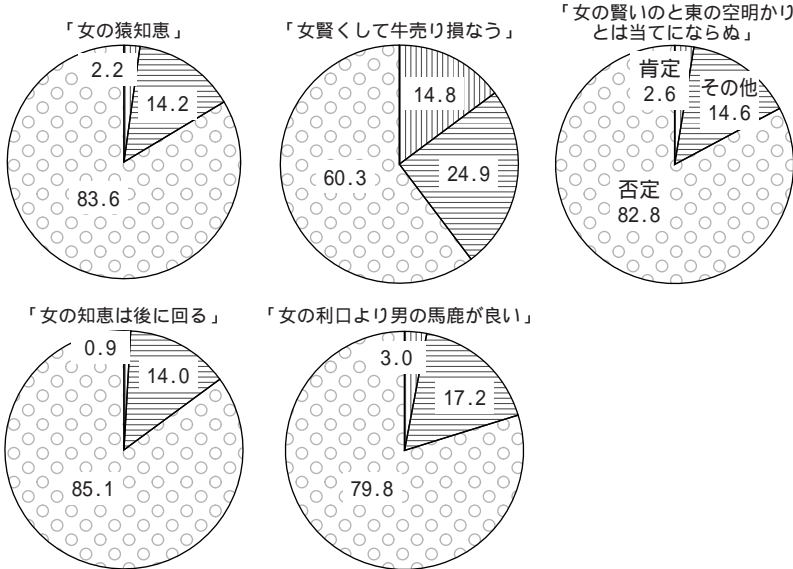
つまり、これらのことわざで表されている困った性格を、女性自身が認めていることになる。その気持ちの奥には、“そのような性格が、女性の特質の一つなのだから”との開き直った気持ちがあるのかもしれない。“執念深かったり、おしゃべりだったりするのは、女だったら当たり前”と思い、さらに、これらのことわざを、“男性(あるいは、自分以外の人間)にそれを認めさせる”ための武器の一つにまで考えているのではないだろうか。

また、Bグループには、他のグループには見られない回答パターンがある。それは、図には表していないが、各ことわざに、「その通りだと思う(しかし)使いたくない」という回答が、約10~30例見受けられたことである。これは、女性の困った性格を一方では認めつつも、同時に、自分では使いたくない、という否定の気持ちをもっている人が少数ながら存在するということである。

Bグループのことわざは、比較的、よく耳にしたり、使ったりすることわざである。現在でも使われていることわざだから、それだけ、受け入れられやすいといえるかもしれない。否定的な回答も、それぞれ約10~30%くらいあるが、Aグループ、Cグループと比べるとやはり少ない。

図3 Cグループ：女性の知性・知恵を否定しているもの

(単位%)



Cグループは、女性の知性・知恵を否定しているものである。図1のAグループと同じく、否定的な回答をした者がほとんどである。

これらのことわざには、“女はバカだ”という陰に、“男は無条件にエライんだ”という発想が見え隠れしている。正面から堂々と男女差別について述べているものであり、否定派が多いのは当然であろう。

また、その使用頻度に関しても、Aグループ同様、最近ではあまり使われないものである。これもやはり、女性の反発を買うことわざであり、また、身近に感じられないために使われなくなったのではないだろうか。

このアンケート調査では、ことわざの内容別に、非常にはっきりとした結果が出た。人格や知性を否定するようなことわざ、女性を型にはめてしまうようなことわざに対しては、否定的で、非常に敏感に反応している。他方、性格を述べたものに対しては、それが女性にとって良くない内容のものであっても、比較的大らかに受け入れているようだ。また、現実とかげはなれていることわざが日常生活で使われず、その結果、忘れられたり聞いたこと

がなかったりするの、当然の成り行きである。

女子大生を対象にした結果を見てきたが、これは、現代の日本人全般にも当てはまることだろう。学校教育の中で、「受験用」としてことわざを覚えることはあっても、日常生活の中で教訓として生かしたり会話の中で頻繁に使ったりすることが、まれになっているものと推測される。

今回調査した“女性に関することわざ”は、その中のごく一部であるが、女性に関することわざを集めていくと、ほとんどが、女性を軽視または蔑視したものであることがわかる。かつて、女性が、いかに認められない存在であったかを知ることができる。また、そのようなことばが、「ことわざ」という地位を与えられて、もっともらしく、現代に存在し続けていることを、大いに問題にすべきである。

【ジェンダーとことば】

いまどきの女らしさ

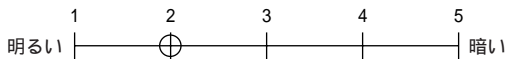
(LCりぼーと3 1995年10月)

「もう少し女らしくしなさい」「泣くななんて男らしくない」。こんなことを、言われたり、聞いたりしたことはないだろうか。普段、「らしさ」は何気なく使われているが、その意味するものは、一体何なのか。

今回は、「女らしさ」をテーマに取り上げ、女子大生たちが「女らしさ」にどのようなイメージを持っているのか、その意識を探るためにアンケート調査を行った。

アンケートの形式は〔例〕の通り。下の枠内に示す、対立する意味を持つ20組のことばについて、「女らしさ」から受けるイメージが、5段階のどの程度にあたるかを判定して、をつけてもらった。

〔例〕



明るい - 暗い	従属 - 独立	丸い - 四角い	憎らしい - かわいい
冷たい - 暖かい	保守的 - 進歩的	細い - 太い	几帳面 - 大ざっぱ
柔らかい - 堅い	内向的 - 外向的	小さい - 大きい	けなげ - ずるい
強い - 弱い	活動的 - 受動的	粗い - 細かい	うるさい - おとなしい
醜い - 美しい	繊細 - がさつ	良い - 悪い	上品 - 下品

また、そのほかに「女らしいと感じるのはどんな人か」という質問には、具体的に記述してもらい、「女らしくありたいか」「他人から女らしいと言われるとうれしいか」の2点については、YES/NOの形式で、回答してもらった。調査対象者は武庫川女子大学の学生で、470人から回答を得た。以下に、その集計の結果を示す。

マイナスイメージの弱さ 「女らしさ」とは耐え忍ぶことにあらず？

まず、女らしさに対するイメージの強いものと弱いものを求めよう。項目ごとに回答の平均値を出し、「3」を基準としてその差を出した。もっとも差が開くと「2」の値が出てくることになる。「2」に近いほどイメージが強く、「0」に近いほど弱いことばになる。それぞれの上位5語は、次の通りであった。

イメージの強いもの			イメージの弱いもの		
1 . 上	品	1.36	1 . 弱	い	0.12
2 . 繊	細	1.25	2 . 従	属	0.32
3 . 柔	らかい	1.19	3 . 内	向 的	0.32
4 . 細	かい	1.17	4 . 受	動 的	0.43
5 . 丸	い	1.14	5 . 明	る い	0.44

イメージの強いものには、「上品」「繊細」「柔らかい」などプラスイメージのことばが並び、逆に、弱いほうには、「弱い」「従属」「内向的」「受動的」などマイナスイメージのことばが並んでいる。

この結果の解釈は2通りが可能であろう。一つは、女らしさに対する認識が旧態依然たるもので、変化していないというものである。女らしさをすばらしいものと信じこんでいる人にとって、そのプラスイメージは存在しても、マイナスイメージは意識にのぼってこないと考えられるからである。

そして、もう一つの解釈は、新しい女らしさのイメージを構築しているというものである。女性解放が問題にされて以来、女らしさについて、その内実は「男に従属し、自己主張をしない、ひっそりとした受け身の女性」的なものであることが指摘されてきた。それを知った上で、旧来の女らしさにまつわりつくイメージのうち、マイナスイメージを捨てて、プラスイメージを中心とする新しい女らしさを意識しはじめたと考えるものである。

どちらが正しいのかは断定しがたいが、いずれにせよ、女らしさをプラスイメージとしてとらえていることは間違いなさそうである。

「女らしさ」への願望 「女らしさ」に積極的

それでは、自分自身の「女らしさ」について、どのように考えているだろうか。

「女らしくありたいか」「他人から女らしいと言われるとうれしいか」の2点について、YES/NOの形式で回答を求め、次表の結果を得た。

	(人)	(%)
とも YES	287	61
とも NO	87	18
そ の 他	98	21

女らしくあることを望み、女らしいと言われることに喜びを感じている者が6割以上である。女子大生たちは、女らしさを求め、女らしくあることに積極的である。反対に女らしさを否定している者は、2割もいない。女子大生たちの女らしさへの願望は強い。

肯定派と否定派 「いまどき」と「昔ながら」

次に、先の質問で‘ともYES’と回答した者を肯定派、‘ともNO’と回答した者を否定派として、それぞれがもつイメージの違いを見てみよう。20組の中から、両者の数値の差が大きいものの、上位8語を示す。

イメージ	肯定派	否定派	差
1. 良 い	0.89	0.14	0.75
2. 美 し い	1.17	0.58	0.59
3. かわい い	1.00	0.44	0.56
4. 明 る い	0.58	0.05	0.53
5. 受 動 的	0.29	0.81	0.52
6. 保 守 的	0.44	0.90	0.46
7. 内 向 的	0.20	0.65	0.45
8. 従 属	0.23	0.63	0.40

これから、次の点が注目される。

- a 否定派は、肯定派ほど女らしさに対して「良さ」も「美しさ」も感じていないし、「かわいい」とも「明るい」とも思っていない。
- b 否定派は、肯定派より女らしさを「受動的」「保守的」「内向的」で、「従属」のイメージとしてとらえている。
- c 両者ともに、対立するイメージの同じほうを選択している。

a、bから、両者の女らしさに対する認識の違いを知ることができる。

つまり、肯定派は、「良い」「美しい」のように「プラスイメージのもの」としてとらえがちであり、反対に、否定派は、「マイナスイメージの耐え忍ぶ女」を連想しがちなのである。イメージするものが「いまどきの女らしさ」なのか「昔ながらの女らしさ」なのかが、両者を分けるボーダーラインといえそうだ。

とはいっても、cから、両者のイメージが、必ずしも対極に位置しているのではないことがわかる。例えば、「良い - 悪い」の場合、肯定派が「良い」ほうの値をとっているのに対して、否定派が「悪い」ほうの値をとっているわけではない。やはり、「良い」ほうの値をとっていて、ただ、肯定派との差が大きいというだけである。さらに、上表に掲げた対立だけでなく、20組すべてについて同じほうの語が選ばれていたのである。肯定派でも、女らしさに、多少「受動的」なイメージを持ち、否定派であっても、女らしさを「悪い」とは言い切れないのである。両者の差は、イメージが強いか弱いかの程度差でしかない。

女子大生の「女らしさ」 「女らしさ」はハートと見た目

さて、女子大生たちは、女らしさをプラスイメージとしてとらえていた。

では、具体的に、どのような女性を女らしいと考えているのだろうか。自由記述の中から、代表的なものを次にいくつか掲げてみる。

【感情重視派】(167人 複数回答を含む)

気がきく、気がつく、気配りができる、心遣いができる 優しい 等

【外見重視派】(78人 複数回答を含む)

美しい、かわいい、色白、きゃしゃ、細い、髪が長い、笑顔がステキ 等

これらから、女らしさの要素として、「感情」が非常に重要な位置を占めていることが分かる。また、外見的な美しさも大事なポイントの一つのようだ。

なお、これらに続いて「家事が上手(27)」があった。

反対に、女らしさをマイナスイメージでとらえている具体例は、次の通りである。

男性に媚を売る、自主性がない、嫉妬深い、ずるがしこい、封建的 等

「自主性がない、封建的」といった、旧来の女らしさのイメージのほか、「男性に媚を売る、ずるがしこい」といった、やや現代的な視点のものもある。と同時に、「男性に媚を売る、嫉妬深い」のように男性を意識する回答があった点で、プラスイメージの場合と違うことが注目される。

ただし、これらマイナスイメージの意見は、全体の470名中12名と非常に少ない。その12名中10名は、否定派であり、女らしさを完全に否定している。しかし、否定派87名中、残りの77名は、具体的な女らしさに良いイメージを持っている。これらの者は、自分自身の女らしさには拒否反応を示しつつ、他人の女らしさは認めているようである。

いまどきの「女らしさ」 女子大生とフェミニズム

女子大生たちの多くは、女らしさのイメージを見る限り、女らしさに反発をしていないし、従来言われていることから想像されるようなマイナスイメージも持っていない。それどころか女らしさを良しとし、目指し、懂れていると推測できる。

「いまどきの女子大生たち」が考える「いまどきの女らしさ」は、果たして昔ながらの女らしさを乗り越えた結果なのか、あるいは、旧来の女らしさに対する問題意識の希薄さゆえの結果なのであろうか。フェミニズムの立場では、この結果をどのように解釈しどのように対応すべきなのだろうか。

【ジェンダーとことば】

女vs.男 いまどきの女らしさPart ～具体例編～

（LCりぼーと5 1996年7月）

『LCりぼーとVol.3』では、次のような内容を、女子大生たちの女らしさに対するイメージとして報告をした。

イメージの強いことばは「上品」「繊細」「柔らかい」「細かい」など

イメージの弱いことばは「弱い」「従属」「内向的」「受動的」など

「女らしさ」に対して肯定的である人が大多数である

「女らしさ」に否定的であっても、イメージに関してはプラスイメージをもっている

アンケート結果から推測する限り、イメージにおいて、女子大生たちの多くは、女らしさに反発せず、むしろ、積極的に女らしさを良しとし、目指し、憧れていると言える。そんな女子大生たちは、具体的にどのような女性をイメージしているのだろうか。今回は、「あなたが女らしいと感じる人はどんな人ですか」という質問に対して、自由に記述してもらった。また、男子の大学生たちが考える女らしさについても、同じように具体例を挙げてもらった。

ここでは、それぞれの結果から、いくつかのパタンを取り出し紹介していくこととする。そして、女子大生と男子学生とを比較して、違いがあるのかどうかについても検討を加える。

調査対象者と、回答を得ることができた人数は、次の通り。

女子	武庫川女子大学（学生）	410人	}	合計557人
男子	大阪府立大学（学生）	106人		
	関西学院大学（学生）	32人		
	神戸学院大学（学生）	9人		
		計147人		

以下に、その具体例を報告する。

女子大生（以下女子とする）と男子学生（以下男子とする）が、具体的にどのような女性を女らしい人として思い描いているのか、その共通点と相違

点を明らかにするために、回答をいくつかのパタンに分けた。女子については25人以上、男子では15人以上が同じような回答をしているものを集めたところ、それぞれ5つのパタンが取り出せた。そのうち3つのパタンは、男女に共通していた。以下、パタンごとに説明しよう。

「気持ち重視パタン」 女は「気配り」、男は「優しさ」

[女子167人 (40.7%)]

よく気が付く、気が回る、細かいことに気が付く、細かな気配りができる
気遣いができる、心配りができる、優しい、優しく包んでくれる など

[男子40人 (27.2%)]

細かいところに気が付く、繊細な気配りができる、小さな気配りができる
優しくて温かい、なにげない優しさを見せることができる など

女子は、約4割が「心遣いができる人」「優しい人」を、女らしいと考えていることがわかる。言い換えれば、多くの女子大生たちにとって、「気持ち」が、女らしさのたいせつな要素として、位置付けられているということである。男子については、3割弱が「気持ち」を重視していて、割合から言えば女子ほど高い数値ではない。しかし、男子全体の中では、一番回答が多かったものであり、その点では女子と共通している。

ところで、同じ「気持ち」でも、「気が付く」「気配り」「心遣い」など（以下「気配り系」とする）の回答と「優しさ」（以下「優しさ系」とする）とがある。この両者を比べると、女子は、「気配り系」109人、「優しさ系」58人で、「気配り系」に重点がおかれている。一方、男子は、「気配り系」14人、「優しさ系」26人になっていて、男子は女らしさを評価するときに、「気配り系」より「優しさ系」の要素を重要視していることがわかる。

「外見重視パタン」 女は「笑顔」、男は「体」

「気持ち」に続いて女子の回答が多かったのは、見た目の美しさを女らしさを結びつけてとらえているものである。

〔女子78人（19.0%）〕

笑顔が美しい、指が細くてきれい、個性的な美しさ、爪がきれい、色白、髪が長く黒い、きゃしゃ、ほっそりした顔、目が大きい、グラマーな体つき、美人、薄化粧、体の線が細い、着物が似合う など

これらの中でも、特に「笑顔」に関するものは、24人が女らしいとしており、「微笑みがステキ」や、「いつもにこにこしている」「笑顔が似合う」などがあった。また、服装に関しては、洋服について述べたものはほとんどなく、和服姿に女らしさを感じるという回答が14例あった。

〔男子34人（23.1%）〕

身長があまり高くない、足首がきゅっとしまっている
うなじがセクシー、胸が大きい、足が細い、太ももがすらっとしている
髪が長い、目がぱっちりしている、色白、丸顔、かわいらしい、美人など

「外見」を重視しているのは、女子が2割弱で、男子は2割強である。双方に共通して女らしいと考えられているのは、「美人」「色白」「髪が長い」「目が大きい」などである。

男子は「足」にこだわった回答が何例かあるが、それは女子にはほとんど見られない。女子は「足」より「手（指）」の美しさを女らしいと評価しており、これは、反対に男子の回答者はいない。女子で一番多かった「笑顔」についても、男子の回答者はゼロであった。「見た目」に関して言えば、男子の方がよりセクシャルなイメージを持っていると言えよう。

「強い女パタン」 「外柔内剛」と「自己主張」

3番目に多かった回答は、「精神的な強さ」を女らしいとしているものである。

〔女子48人（11.8%）〕

受動的なようだが芯が強い、生き方に自信をもっている
一見弱そうで実は凜としている、内に秘めているものがある など

これら以外にも、「自分の意志をもっている」「社会的に自立している」などの意見がある。

[男子28人 (6.8%)]

芯がとおっている、独立心をもっている、甘えたときに叱ってくれる
落込んだときに励ましてくれる、自分の意見をはっきり言える など

女子・男子ともに、「外柔内剛」タイプの女性を指している意見と、「自己主張ができる」ことを強調しているものがある。前者は、昔ながらの女らしさにも通じるタイプであるが、後者は、現代的な視点である。

次に、女子に特徴的な具体例を挙げてみる。

「家事万能パタン」

[女子27人 (6.6%)]

家事が完璧、料理が上手、料理や掃除が好き など

女子では、「炊事・掃除・洗濯」の、いわゆる家事全般について、回答がばらついてしたが、男子では、「料理」についてののみ、4人の回答があるにとどまった。男子は、家事に有能なことを、女らしさとあまり関係づけていないといえる。

「ことばづかい重視パタン」

[女子25人 (6.1%)]

ことばづかいが丁寧、ことばづかいがきれい、敬語を正しくつかう
話し方が上品、優しい話し方、しっとりとした話し方 など

男子では、1人だけが「ことばづかいが丁寧」な女性を、女らしいとしていた。

最後に、ほとんど男子にしか見られなかったパタンを2つ挙げる。

「内向的重視パタン」

[男子38人 (25.9%)]

物静か、気が弱い、控え目、あまりしゃべらない、声が小さい
おとなしい、でしゃばらばい、人より目立とうとしない、口数が少ない、
内向的 など

「男の御都合主義？パタン」

[男子16人 (10.9%)]

男をたてる、男に頼る、男の後ろを歩く、男に尽くす、操を守る
わがままを言わない、常に一緒にいる男性のことを考えている
男の言うことを素直に聞く
夜中に仕事から帰ってきたときに起きて待っている など

「弱い」「従属」「内向的」「受動的」などは、女子にとってはイメージが弱かった。しかし 内向的重視パタン を見る限り、男子にとっては、「弱く」て「内向的」な女性を、女らしいと感じている人が4人に1人いることがわかる。また、 男の御都合主義？パタン では、(男に) 「従属」して「受動的」であることを、女らしいと考えていることが推察できる。これら男子のみに見られる女らしさの2つのパタンは、女子がもっている女らしさのイメージとは対極に位置している。

以上のうち、注目されるのは、ほとんど男子にしか見られない回答パタンが、女子の意識の中では女らしさとあまり関連づけられていないもので、マイナスイメージのものにほかならないことである。やや極論ではあるが、いまどきの男子大学生が希望する女らしい人とは、「おとなしくて優しく、芯が強いけれどわがままを言わない、セクシーな体つきをした」女性なのである。現代は、ユニセックスな時代だと言われているが、少なくとも「女らしさ」に対する男女の意識差は歴然としてある。

【ジェンダーとことば】

ことば女と男のあいだ

(LCりぼーと 9 1998年11月)

女性が男性に話しかけたり呼びかけたりするときには、どのような言い方を好むのだろうか。女子大生を対象にその意識を探るため、武庫川女子大学の学生を調査対象者として、アンケート調査を実施した。調査時期は1998年1月、有効な回答数は505人。以下に調査結果の一部を報告する。

「喫茶店に誘うとき」

喫茶店に入らない？	61.7(%)
" 入ろう	25.3
" 入る？	10.0

デートで喫茶店に入りたいときに、相手にどのような言い方をしたいか、という質問に対して、「入らない？」といった否定形を好む人が一番多く6割を超えている。否定形の言い方を使って、相手に選択の余地を残すという遠慮がちな態度がうかがえる。

「デート代の払い方」

ワリカンにしようと言う	70.9(%)
何も言わない	8.9
その他	20.2

デート代を彼が払おうとした場面で、どのような態度をとりたいか、という質問には、「ワリカンにしようと言う」と回答した人が一番多く約7割。「何も言わない」とした人は1割にも満たない。つまり、黙っておごってもらって当然という人は非常に少ない。

金銭的な面では対等な立場をとりたいと考えている人が多いようだ。「その他」が約2割(102人)いるが、その人たちの自由筆記による回答を、次の3つの型に大まかに分類した。

対等型 (29人)

「次のデートでは自分が払う」と言う

店を出た後で自分の分を払う(男性のプライドを保つため) など

臨機応変型 (4人)

つきあいの期間の長さによる(短い - ワリカン、長い - おごってもらう)

相手の年齢による(同い年以下 - ワリカン、年上 - おごってもらう)など

ちゃっかり型 (56人)

「ありがとう」「ごちそうさま」「お願いします」などと先に言ってしまう
一応「いいの?」と聞くが、払うつもりはない

「俺が払うよ」と言ってくれるのを待つ

自分もサイフを出してみるけれど、内心では断ってもらいたいと思うなど

「その他」の回答では、ちゃっかり型が一番多く56人で54.9%。全体では11.1%になり、「何も言わない」人たち(8.9%)よりも多い結果となった。

「何も言わない」人たちを「受動のおごられ派」とするなら、ちゃっかり型では、自分も払おうとするそぶりを一応見せるなどかけひきをしており、「能動のおごられ派」と言えよう。これらの両者を合わせると、結局「おごられ派」が全体の2割を占めることになる。

「呼び方、呼ばれ方(呼称)」 恋人/夫

恋人をどのように呼びたいか、恋人からどのように呼ばれたいか、また、結婚したら夫をどのように呼びたいか、夫からどのように呼ばれたいかを質問した。

現代のことばから見えてくるもの

恋人の呼び方	(%)	夫の呼び方	(%)
名前の呼び捨て	43.9	名前の呼び捨て	37.8
名前+さん(ちゃん)	23.5	名前+さん(ちゃん)	30.2
ニックネーム	19.2	ニックネーム	11.6
その他	13.4	あなた	11.4
		その他	9.0

呼び方で一番多かったのは、「名前を呼び捨て」(以下「呼び捨て」)にしたいという回答で、恋人で半数近く、夫で約4割であった。次いで「名前+さん(ちゃん)」、「ニックネーム」と続く。夫の呼び方では、現代の若い女性にとっては、やや古風とも思われる「あなた」を選択した人が、ニックネームとほぼ同じ1割強存在する点が注目される。

次に、自分は相手からどのように呼ばれたいか、という質問に対する回答結果を示す。

恋人からの呼ばれ方	(%)	夫からの呼ばれ方	(%)
名前の呼び捨て	69.5	名前の呼び捨て	75.0
名前+さん(ちゃん)	11.0	名前+さん(ちゃん)	9.9
ニックネーム	11.0	ニックネーム	5.1
その他	8.5	おまえ	5.1
		その他	4.9

どちらも、「呼び捨て」「名前+さん(ちゃん)」「ニックネーム」という順になっており、呼び方の場合と同じである。夫からの呼ばれ方では「おまえ」が「ニックネーム」と同順位である。ぞんざいで目下に対する呼びかけでもある「おまえ」に抵抗を感じない人が、少数ながらいることがわかる。

呼ぶのも呼ばれるのも、「呼び捨て」が一番支持されているが、呼び捨てにするよりも、呼び捨てにされたい人のほうが多い。呼び方と呼ばれ方との組み合わせはどうか。ここでは夫の場合を示す。

呼びたい 呼ばれたい	呼び捨て	名前+さん (ちゃん)	ニックネーム	あなた	(人)
呼び捨て	179	107	32	39	
名前+さん(ちゃん)	2	41	2	3	
ニックネーム	2	2	22	0	
おまえ	7	0	2	13	

お互いに呼び捨てにすることを望むタイプが最も多いが、それ以外に「呼び捨て」にされたいタイプもかなりいる。

そこで、上の結果について対等かどうかという観点から整理し、次の表のように分類した。

呼びたい	呼ばれたい	
同 じ 呼 称		対等型 (242人)
名前+さん(ちゃん) ニックネーム・あなた	呼び捨て おまえ	夫上位型 (191人)
呼 び 捨 て	名前+さん(ちゃん) ニックネーム	妻上位型 (4人)

被調査者(505人)のほぼ半数は「対等型」で、「夫上位型」が4割近い。「妻上位型」はほとんどいない。「夫上位型」のうち、「あなた」と呼びたい人は52人で、4分の1強になる。さらに、そのうちの4人に1人は、「あなた」と呼び、夫からは「おまえ」と呼ばれたいという「夫上位型」の最たるパターンを望んでいる。

女子大生たちの呼称に関する意識には、夫を目上の人と考える、古めかしいタイプを望む人がかなり残っている、という結果が出た。

さて、結婚後共働きと専業主婦のどちらを望むかという質問に対しては、共働き57.5%、専業主婦27.8%、その他14.7%という結果であった。半数以上の方が共働きを望んでいる。そこで、共働きを望むか、専業主婦を望むかという意識の違いと、呼称に関する意識と何かつながりがあるかどうかを調

べた。

対等型	共働き 61.2	専業主婦 26.4
夫上位型	共働き 54.6	専業主婦 31.9

「対等型」「夫上位型」におけるそれぞれの共働き、専業主婦希望者の比率を示したものが左図である。「対等型」のほうが、共働きをしたい人の割合が多い。

結婚後、共働きをしようとする意識と、呼称が「対等型」でありたいとする意識との間にやや関連があるように見える。

同様に、喫茶店への誘い方・デート代の支払い方と、働く形態の関係を次に示す。値の高いほう（太字）が、よりその言い方・支払い方を好む傾向があるというものである。共働きの希望者は、喫茶店へは比較的積極的な誘い方をし、代金の支払いはワリカンにしようとする。他方、専業主婦を望む人は「入らない？」と遠慮がちに聞くが、支払い時には何も言わずにおごってもらおうとする傾向にある。

	共働き	専業主婦 (%)
入らない？	56.6	69.3
入ろう	28.3	22.9
入る？	12.4	6.4
.....		
ワリカン派	73.1	67.9
おごられ派	26.9	32.1

以上の結果だけで全体について明言はできないが、共働きを望む人は、男性と対等な関係であろうとする意識が、専業主婦を望む人よりは強い可能性がある。

デート代の支払いでは、多くの女子大生は男性と対等であろうとする意識があるように見える。しかし、喫茶店への誘い方、呼称など、ことばづかいに関しては、男を立てる（その自覚があるかないかは別として）感覚の人が少なからずいるように思われる。そして、その感覚は専業主婦希望者に多そうであった。

態度とことばづかいとのギャップ、それは何を物語るのか。ことばに表れた女子大生の意識は、はたして本心を表すものか、それとも本心を覆いかくす武器なのか。

【雑誌とことば】

2001年オンナのファッション 春を彩るキーワード

(LCりぼーと13 2002年1月)

ファッションはその時代を反映していると言われる。特に女性のファッションは、その年々による流行があり、情報はいち早く雑誌に掲載される。そのようなファッション雑誌は、いわば時代を象徴する情報を発信していると言える。今回のリポートは、女性雑誌のファッション記事に使われていることばを取り上げる。材料は、大人の女性向け雑誌『ミセス』と、若い女性向け雑誌『JJ』の2種類。21世紀最初の春、ファッション雑誌には、どのようなことばがどのように使われていたのだろうか。ことばの面から、ファッションの流行に迫ってみることとする。また、2つの雑誌に現れる語彙を比較して、共通することば・相違することばも探してみる。

調査の方法

『ミセス』と『JJ』各4月号から、洋服を扱っている記事をデータとして集めた。データは、洋服を説明しているセンテンスに限定し、靴やバッグ、アクセサリー等に関する商品説明は除いた。見出し、小見出しについては、目次と重複するもの以外を取る。ただし、商品名のみや、単語のみはデータとして認定しない。また、価格のみもデータとしない。モデルの話は、洋服に関する場合はデータとして入力する。このようにして集めたデータを、テキストデータとして入力し、プログラム処理によって使われている語彙を調べた。自立語だけを対象とし、助詞、助動詞は含めない。語の単位は国立国語研究所による長単位データである。

各雑誌に含まれるデータは、次の通りであった。

	ミセス	JJ
センテンス	317文	712文
延べ	2,648語	4,477語
異なり	1,330語	1,544語

評価語

洋服を評価したり形容したりする場合には、どのような語彙が使われているのだろうか。多く用いられた語彙は、洋服のアピールポイント、すなわち流行の傾向を示すキーワードであると言える。そこで、JJについては頻度10以上、ミセスは頻度5以上カウントされた評価語を挙げてみる。それが、表1である。

表1：洋服を評価・形容している語彙

J J			ミ セ ス		
順位	語 彙	頻度	順位	語 彙	頻度
1	人気・人気上昇中	53	1	エレガンス・エレガント	12
2	可愛い・可愛らしさ	52	2	軽やか・軽快	12
3	大好き・好き	37	3	シンプル	11
4	シンプル	36	4	上質	10
5	きれい	35	5	魅了する・魅力	10
6	女の子らしい	28	6	カジュアル	9
7	ゴージャス	27	7	女らしい・女性らしい	9
8	お気に入り	25	8	美しい	8
9	・	23	9	楽しめる	7
10	華やか	21	10	さり気ない	6
11	大人っぽい・大人らしい	20	11	贅沢・贅沢感	6
12	セクシー	18	12	シャープ	5
13	清潔感・清純・清楚	12	13	華やか・華やぐ	5
14	カジュアル	12	14	心地よい	5
15	爽やか	12	15	新鮮	5
16	女らしい	11			

JJは、人気・人気上昇中、可愛い・可愛らしさ、大好き・好き、シンプル、きれいなどが多く使われている。ミセスは、エレガンス・エレガント、軽やか・軽快、シンプル、上質、魅了する・魅力などが上位に入っている。

双方に共通しているのは、シンプル（JJ 4 位、ミセス 3 位）、カジュアル

(JJ14位、ミセス6位)、女らしい(JJ16位、ミセス7位)である。JJには、女らしいに近いことばで、女の子らしい(6位)があり、JJとミセスによって、対象とする読者の年齢層の違いがうかがえる。

JJで特徴的なのは、・(9位)のように、記号が使われていることである。例えば、「白のパンツはモノトーンにカッコよく見せるのが。」「上品で親ウケも なのでピンクが好き。」のように使われている。これらは、「マル」、「ニジュウマル」と読ませると同時に、視覚に訴えて一目で分かるようにされているものである。他には、「原色イエローだと下品になりすぎるから×。」の「×」(バツ)や、「水色×チェック柄のコーディネートは清楚と彼にも好評♡」の「♡」(ハートマーク)などがある。「♡」は、文章の一部として読ませるというよりは、その文章の雰囲気を表しているいわば装飾であり、「好評」を強調しているものである。これらのように、JJでは、記号も組み合わせながら、洋服を評価・形容している。

ミセスでは、「エレガンス・エレガント」「贅沢・贅沢感」など、上品で優雅、高級感を表す評価語が目立っている。また、「シンプル」「カジュアル」「ゴージャス」、「可愛い・可愛らしさ」「セクシー」「女の子らしい」「大人っぽい・大人らしい」(以上JJ)、「エレガンス・エレガント」「カジュアル」、「シンプル」「シャープ」「贅沢・贅沢感」(以上ミセス)など、対義的な語が同時に登場するのは、双方に共通している点である。

色彩語

次に、洋服の要素として比較的大きな比重を占める色についてはどうだろう。表2に、JJは頻度5以上、ミセスは使用されたすべての色彩に関する語彙を挙げる。

表 2：洋服の色として使われている語彙

J J				ミ セ ス			
順位	語	彙	頻度	順位	語	彙	頻度
1	白		62	1	白		8
2	ピンク		44	2	黒		5
3	キレイ色		30	3	赤		4
4	黒		29	4	ゴールド		3
5	パステル		18	5	オレンジ		2
6	赤		13	6	ベーシックカラー		2
7	モノトーン		13	頻度 1			
8	ラメ		9	アクセントカラー、カーキ			
9	ゴールド		9	キャメル、シーズンカラー			
10	水色		9	スモーキー、パステル			
11	グリーン		7	ビビッドカラー、ピンク			
12	ベージュ		7	ベージュ、ライムグリーン			
13	差し色		7	甘い色、紺、青、浅黄色			
14	アップルグリーン		6	多色づかい、優しい色			

色彩語の頻度値は、JJが延べ326、ミセスが延べ40と、JJが約 8 倍の多さである。それだけJJでは、色を説明することの重要度が高く、また表現方法がバラエティーに富んでいると言える。

JJでは、白が一番多く、次いでピンク、キレイ色、黒と続いている。3位のキレイ色という表現は、次のように用いられている。「カジュアルになりがちなシャツもキレイ色を選べば華やかさはキープできます。」「オードリーを意識したサブリナパンツはキレイ色ニットで上品に。」「いつもより女のこらしく見せたい初デートの時は、男のこうけもいいキレイ色ワンピースをチョイス。」「ワンピースの中でもキレイ色が一番の人気」「春のマストアイテムの白シャツにはキレイ色スカートを合わせる」などである。これらから分かるのは、キレイ色とは、華やかで 上品、そして 女の子らしくて 男のこ受けが良く 一番人気で 白ではない色だということである。おそらく黒

やページなどでもないと推察される。

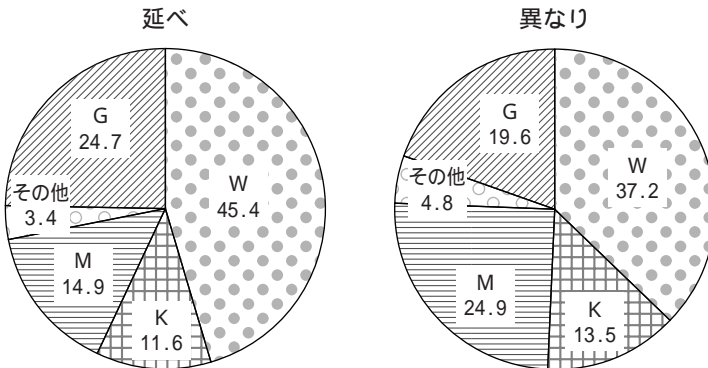
双方に共通している頻度値の高い色は、白、黒、赤、ゴールド。白は、JJと同じくミセスも一番多く使われている。2001年春のテーマカラーは白ということになる。

このように、共通する流行色は、ゴールドを除き和語表記であるが、色彩語全体の語種を調べてみると、延べで、外来語（JJ：44.8%、ミセス：43.9%）、和語（JJ：42.0%、ミセス：51.2%）という割合であった。どちらも和語と外来語がほぼ半数ずつである。次ページに挙げる全体の語種別使用率と比較しても、外来語の割合が非常に高いことが分かる。つまり色彩の表現には、外来語表記の方が適している場合が多いのであろう。

語種別使用率

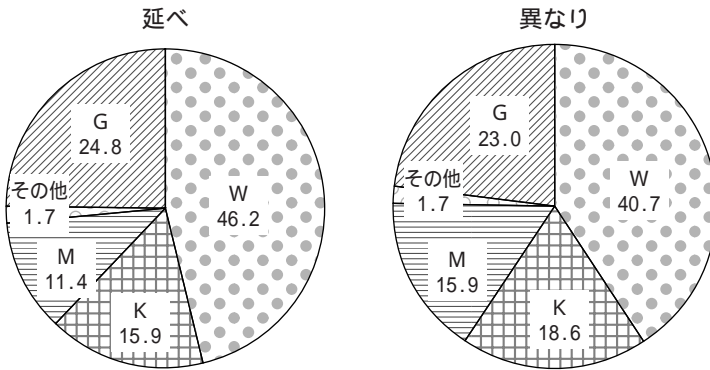
次の図1、2は、各雑誌の語種別使用率である。語種は、和語（W）漢語（K）外来語（G）混種語（M）その他の5分類とし、ブランド名は、外国語であってもその他に分類することとした。

図1 『JJ』



ファッションという性質上、外来語が多く、漢語が少ないだろうという予想通りの結果が表れた。漢語は、延べ・異なりとも2割以下の比率である。特にJJの延べでは、約1割という低い結果になった。

図2 『ミセス』



混種語が比較的多いのは、データの区切り方を長単位としたからである。JJの異なりでは、約4分の1を混種語が占めているが、その内、61%が外来語プラス他の語種の結びつきである。これからも、外来語が多く用いられていることが証明される。

【雑誌とことば】

食 の こ と ば

(LCりぼーと16 2003年3月)

「大阪の食い倒れ」ということばがある。「飲み食いにぜいたくをして貧乏になること」と辞書にはあるが、見方を変えれば、「大阪にはおいしい食べ物がたくさんあって、そこに暮らす大阪人はさまざまな食べ物を食して豊かな食生活を楽しんでいる」といった意味にとらえることもできるだろう。食に対して意識が高いとも言える、そんな大阪から発信している食の雑誌がある。それは、関西の食マガジン、月刊誌『あまから手帖』¹⁾。今回のレポートは、この雑誌を調査材料にして、“食を表現する際にどのようなことばが使われているか”についての調査結果を以下に示す。

調査の方法

2002年4月・5月・7月・8月・10月の5か月分の、各月に掲載された特集記事を調査資料とした。特集記事名²⁾は、4月「ごちそう串揚げ」「神戸で魚」、5月「進化する和食」、7月「ミナミの懐」「北摂・口コミの店」、8月「暑気払い」、10月「私の京都」「秋の食彩」。これらの特集記事に掲載された内容のうち、今回の調査対象としたのは、料理写真のキャプションである料理の説明文。それ以外の、たとえば、食器、店の造りや内装、店主の人柄など、料理とは直接関係がないものについては調査の対象外とした。また、値段だけを記したものや、材料名などの単語を羅列しただけのものも省いた。

このようにして認定したデータを、テキストデータとして入力し、プログラム処理により使われている語彙を調べた。自立語だけを対象とし、助詞、助動詞は含めない。語の単位は、国立国語研究所による長単位である。

1) ㈱クリエテ関西発行

2) 紙面の都合上、特集記事名が長いものについては省略した形にしている。

得られたデータは次の通り。

センテンス：1,028文 延べ語数：8,459語 異なり語数：3,629語

以下、味覚、材料・料理名、調理法、料理説明の4つの視点から、食に使用されていることばの実態に迫ってみる。ただし、特集記事が対象であるので、自然、用いられることばにも偏りがでてくるであろうことが予測される。特定のテーマ・範囲に限られた中での食を表すことばであることを初めに断っておく。

「味・味覚を表すことば」

「味」は食べ物に備わっている属性の1つであり、「味覚」は食べ物を食した人間の感覚であるという区別ができるが、ここでは両者をひとつにまとめ、味覚語彙として捉えることにする。

表1 味覚語彙

順位	語	度数	順位	語	度数
1	甘い/甘み/甘さ/甘め/甘いめ	56	12	醤油味	2
2	旨い/旨み/旨味/旨さ	43	12	薄味	2
3	風味	31	12	味噌味	2
4	辛い/辛さ/辛み	25	15	ほろ苦さ	1
5	酸味	23	15	塩辛い	1
6	コク	20	15	甘酸っぱさ	1
7	さっぱり味/さっぱりと/さっぱり/ サッパリ	13	15	甘辛い	1
8	あっさり味/あっさりと/あっさり/ あっさりめ	12	15	基本味	1
9	すっきり味/すっきりと/すっきり/ すっきり感	8	15	激辛	1
10	隠し味	7	15	辛酸甘	1
11	塩味	4	15	青味	1

一般に、味覚語彙は乏しく、味や味覚をことばで表現することは難しいと言われているが、五味（甘い・辛い・苦い・酸っぱい・塩辛い）に代表される基本的な味のほかにどのような味や味覚を表すことばが使われているだろうか。

「甘い/甘み/甘さ/甘め/甘いめ」、「旨い/旨み/旨味/旨さ」が、1位と2位にランクインしている。

現在わたしたちが使っている「アマイ」という語は、古典語の「ウマシ」から「アマシ」に転じ、「アマイ」に通じるとされており、「アマイ」と「ウマイ」とは近接した味覚であるとも言える。そして、この上位2語の延べ語数は、味覚語彙全体の延べ語数の4割以上を占めている。これらのことは、おいしさをことばで表現する際、甘さに焦点を当てることが重要であることを示している。味覚の中で甘さの評価は高いのである。4位以下には「辛み/辛さ」「酸味」と続いており、五味のうち「甘い・辛い・酸い」がよく使用されていることが分かる。それ以外には、「さっぱり」「あっさり」「すっきり」などの味覚表現以外でも使用される語が用いられているものや、「ほろ苦さ」「激辛」のように、程度を表す接頭辞を伴っている語などが見受けられる。また、具体的な調味料を用いて味を表している語としては、「塩味」「醤油味」「味噌味」などがあげられる。

これらの味覚語彙が全体に占める割合は、延べで1.8%、異なりで0.6%しかない。やはり、味覚をことばで表現するのは難しいようである。

「材料・料理名を表すことば」

表2 材料・料理名語彙

順位	語	度数	順位	語	度数	順位	語	度数
1	麺	37	9	醤油	17	18	筍	13
2	だし	35	9	素材	17	22	ご飯	12
2	スープ	35	13	玉ネギ	16	22	エビ	12
4	一品	34	13	鯛	16	22	トマト	12
5	ソース	27	15	串	15	22	具	12
6	野菜	23	15	造り	15	22	松茸	12
7	そば	20	17	コース	14	22	八寸	12
8	塩	19	18	デザート	13	22	料理	12
9	つゆ	17	18	フォアグラ	13	29	味噌	11
9	自家製	17	18	椎茸	13	29	鰻	11

料理を作る際の材料・素材、できあがった料理名を表す語である。ここに抽出された語は、特に特集内容の影響を大きく受けている語であると言える。そこで、ここでは比較的影響が少ないと考えられる、基本的な調味料を表す語に注目することにする。

「だし」「スープ」「ソース」「つゆ」「塩」「醤油」「味噌」などである。表1で見た味覚語彙では、甘さの表現に重点が置かれている結果が出たが、これら調味料では、甘さ以外の味を表す語の出現度数が高くなっていて、甘み調味料の代表格である「砂糖」は上位にランクインしていない。つまり、「甘み」イコール「砂糖」ではないのである。

「調理法を表すことば」

表 3 調理法語彙

順位	語	度数	順位	語	度数	順位	語	度数
1	加える	29	11	蒸す	7	20	ブレンドする	4
2	入れる	21	12	あしらう	6	20	煮る	4
3	かける	19	12	炙る	6	20	焼き上げる	4
3	添える	19	14	手打ちする	5	20	蒸し上げる	4
5	焼く	18	14	盛り合わせる	5	20	炊き上げる	4
6	巻く	14	14	盛り込む	5	20	盛る	4
7	のせる	13	14	漬け込む	5	20	切る	4
8	揚げる	11	14	包む	5	20	和える	4
9	煮込む	10	14	炊く	5	20	茹でる	4
10	混ぜる	9	20	のばす	4			

表 3 は、材料にどのような加工をして料理へと完成させるか、その途中経過の調理法を表す語である。「加える」「入れる」「かける」「添える」といった、あるものに他のものをプラスする調理法を表す語が上位を占めている。

また、基本的な調理法を表す語としては、「焼く」「揚げる」「煮込む」「蒸す」「炊く」などが出現している。外来語が用いられているのは、表中では「ブレンドする」の 1 語のみであり、調理法を表す語では、和語が活躍していると言えそうだ。

「料理を説明することば」

表 4 料理説明語彙

順位	語	度数	順位	語	度数
1	味わい	68	20	人気	11
2	味	64	20	丁寧だ	11
3	香り	56	20	爽やかだ/さわやかだ	11
4	たっぷりと/たっぷり	46	25	そそる	10
5	食感	33	25	バランス	10
6	食べる	29	25	新鮮だ	10
7	香ばしい/香ばしさ	25	25	相性	10
8	合う	23	25	濃厚だ	10
9	つける	22	25	優しい/やさしい	10
9	いい/イイ	22	31	とろける	9
11	いただく	20	31	アクセント	9
12	絶妙/絶妙だ/絶妙なる/ 絶妙ゆえ	19	31	柔らかい	9
13	軽い	17	34	ほんのりと/ほんのり	8
14	強い	16	34	ボリューム	8
15	上品だ	15	34	繊細だ	8
15	独特だ	15	34	楽しい	8
17	コシ	14	34	濃い	8
18	多い	13	34	贅沢だ	8
19	逸品	12	34	うれしい/ウレシイ	8
20	のど越し	11	34	ほどよい/ほど良い/ 程よい/程良い	8
20	歯ごたえ	11			

できあがった料理を、どのようなことばを用いて表現し、説明しているかという視点である。表 1 では味覚語彙を示したが、ここでは味覚以外の料理を説明することばをみていく。

「味」「味わい」「香り」が上位 3 語である。やはり、味と香りについて説

明している文章が多いことが分かる。「コシ」「のど越し」「歯ごたえ」なども、料理を説明する上で重要なポイントになるようである。

次に、料理を評価している語をピックアップしてみよう。「いい」「絶妙」「上品」「独特」などが、料理の評価語としてよく用いられている。

4位には量の多さを示す「たっぷり」という語がランクインしている。

5位の「食感」は、比較的最近に使われ始めた語である。食べ物を口にした時の味覚以外の感覚を表しており、「ねっとりした食感」「さっぱりした食感」「クリスピーな食感」「白子のような食感」などの用いられ方をしている、どのような語とも共起できそうな便利な語であると言えよう。

雑誌の読者は、料理の持つ味や香りを知ることができないのであるから、視覚（写真）と、記者の主観が表出されたこれらの語を元に、想像力を働かせて料理のおいしさを推し量るしかない。言い換えれば、おいしさを読者に知らせるバロメーターの役割を持っているのがこれらの語なのである。

【雑誌とことば】

料理の名づけ ～食のことばPart ～

(LCりぼーと17 2003年9月)

『LCりぼーとvol.16』は、「食のことば」と題して、味覚語彙・料理の材料名・料理の説明語彙などの調査報告を行った。そこでは、味覚を表現することばの乏しさが再確認されたことや、「食感」という便利なことばが使われていることなど、語彙調査によって明らかになった事実を示すことができた。

今回のレポートは、同じく食のことばであるが、「料理名」(料理雑誌で取り上げられている料理の名前)をデータとして調査結果を掲載する。

調査材料には、料理の専門雑誌を用いた。『dancyu』³⁾と『月刊専門料理』⁴⁾の2種である。料理を専門に扱う雑誌には、いったいどのような料理名が出現するのか、料理名を分解してみるとそこから何が見えてくるのか。以下に、調査結果の一部を報告する。

調査の方法

『dancyu』は、2003年1月～6月の6か月分、『月刊専門料理』は、2002年1月、2月、8月及び2003年2月～4月の6か月分、合計12か月分を資料とした。各月に掲載された内容のうち、今回の調査対象としたのは、料理写真のキャプションとして掲載されている料理に付けられている料理名。ただし、「うどん」「カレー」「ラーメン」のような単純語だけで構成されている料理名は除いた。また、デザートは今回の調査対象からは省くこととした。このようにして得られたデータ数と料理の種類は次の通り。

3) プレジデント社発行 発行部数 252,000部 対象 20～40代の男女

4) 柴田書店発行 発行部数 91,000部 対象 プロ調理師

以上、『雑誌新聞総かたろぐ』2003年版メディアリサーチセンターによる

全料理名数 572例（内訳 和食:237 中華:100 洋食:228 その他:7）

その他には、韓国料理やエスニック料理などが含まれるが、今回の調査では、少数であったため、和食、洋食、中華を中心に分析を行うこととする。

分析の視点は、料理名に使用される文字数と構造パタンの2点を中心とする。

文字数から料理名をながめる

表：料理名の文字数一覧

	文字数平均	最大文字数	最小文字数
和 食	7.59	27	3
中 華	13.27	40	4
洋 食	21.29	71	4
全データ	14.07		

まず、料理名に使用されている文字数について一覧表に示してみる。

全データの平均文字数は、14.07文字。平均文字数と最大文字数が最も多いのは、洋食であった。平均文字数は21.29文字で、一番長い料理名には71文字が使用されており、その長さは、このレポートの約2行分に相当する。

「ジャルダン・デ・サンスのスペシャリティージャガイモで巻いた鴨のフォアグラのフリット、洋梨のコンポートヴァニラの香りバニユルスのキャラメルソース」がそれである。洋食の料理名として使用されることばの中には、フランス語やイタリア語がそのままカタカナ表記として用いられることが多いため、必然的に長くなるものと考えられる。また、30字以上の文字数からなる料理名は、全体の中で44例あり、そのうち42例が洋食である。洋食は長い料理名が付けられる傾向にあると言えそうだ。

反対に平均文字数が最も少ないのは、7.59文字の和食で、最少文字数も一番少ない。こちらは、「菊花蕪」や「梅素麺」などのように、漢字表記が使用される場合が多いことと関係しているのだろう。和食で最も長い料理名は、

「鴨のロースト おろし蕪と水菜のあんかけ」で18文字。

構造パタンから料理名をながめる

料理名の名付け方には、いくつかの構造パタンが認められる。そこで、次に、料理名がどのような要素によって、どのように構成されているかという面から見てみることにしよう。以下、具体例を挙げながら、おおまかに5つのパタンに分類する。

・基本パタン 平均文字数9.61字 [食材 + (の) + 調理法 / 完成名] 型

納豆とひき肉の炒め物 / 里芋の揚げだし / 蛸黄身酢かけ (和食)

ゴボウと肉団子のスープ / フカヒレの姿煮 / 白子入り麻婆豆腐 (中華)

菜花と蟹のタリオリーニ / 干し野菜のスープ / 海の幸サラダ (洋食)

このパタンは、単品あるいは2品以上の食材とその調理法あるいは完成名から構成されたものである。食材と調理法 / 完成名との間には、助詞「の」がある場合とない場合とがある。また、ここでの完成名とは、「それだけで料理名としてとらえることができるもの」としておく。

全データの中で、この構造パタンが6割以上と、最も多い。そこで、このパタンを「基本パタン」とした。また、基本パタンの中では和食の占める率が一番高く半数以上を占めている。洋食と中華の比率は、それぞれ2割強と2割弱である。

・基本パタン + 形容語 平均文字数15.03字

[食材 + (の) + 形容語 + 調理法 / 完成名] 型

[形容語 + 食材 + (の) + 調理法 / 完成名] 型

豆腐と香菜のさっくり和え / 鶏のさわやか煮 / 漁師風わたりがにの味噌汁 / 極上比内地鶏もも肉焼き 桜鱈と蓬の彩り春巻き (和食)

春たけのこのパラパラ炒め / 特上フカヒレ姿煮 / 干し海老、干し貝柱のちまき風キャベツ巻き蒸しご飯 (中華)

仔牛のトライプの温かいテリーヌ / ブルゴーニュ産ホロホロ鳥のココッ

ト焼き / シチリアの護衛兵風、烏賊の「2 分間」煮 (洋食)

このパタンは、 の基本パタンに形容語 (形容詞、形容動詞、副詞、～産、～風) が加わった形の料理名である。形容語が加わった分、平均文字数も多くなっている。この構造パタンでは、洋食の占める割合が最も高くなっており、洋食の料理名には形容することばを付した名付けがよく行われていることが分かる。

また、上に示した例以外の形容語には、冷たい / こんがり / クリーミー / あつあつ / かんたん / 高知産 / 自家製 / 皮付き / 山里風 / さしみ風などが見られる。

・基本パタン + 添え書き 平均文字数21.65字

[食材 + (の) + 調理法 / 完成名 + 添え書き] 型

豌豆すり流し仕立て、フカヒレの姿 / 鴨のロースト おろし蕪と水菜の

あんかけ / 鮭と白子の白雪小鍋 旬野菜彩々 (和食)

ハウボウの蒸しもの 赤酢ソースがけ / 豚豆の湯引き、葱生姜のソース

(中華)

キャベツのスープ ロックフォールチーズのせ / タラの白子のムニエル、

大根の含め煮添え生姜風味 (洋食)

このパタンは、前半が基本パタンで構成されており、後半がその料理に説明を加える形で添え書き風になっているものである。添え書きには、基本パタンの料理に付け足された添え物の食材や、あん・ソースなどについて記された例が多くなっており、平均文字数は 型より多い。この構造パタンも洋食の割合が最も高くなっている。

・基本パタン + 形容語 + 添え書き 平均文字数31.84字

[食材 + (の) + 調理法 / 完成名 + 形容語 + 添え書き] 型

フランス産カエルのムニエルとパセリのスープ仕立て きの子添え / エ

スカルゴのかりかりフリット、エストラゴン風味 / 軽く燻製した鶏の

ロースト、ボルロッティ豆のスープ添え / 冷たいキャビアのスパゲッ

ティーニ シブレットと松の実のソース

(洋食)

この構造パタンの料理名は、基本パタンに形容語と添え書きが加わった形のものである。また、ほとんどが洋食である。

・ ~ 型 + 文章調 平均文字数38.13字

[食材 + (の) + 調理法 / 完成名 + 形容語 + 添え書き + 言いさし / もてなしのことば] 型

菜の花と、甘みがいっぱい白葱ソース 焼き蛤とどうぞ / フランス産アスパラガスのムース キャビアとコンソメゼリーと共に / 半熟卵 ~ トリュフ風味に半熟に蒸してセップ茸とアスパラガスのコンテチーズ風味の軽いグラチネと一緒に / ラカン産仔鳩 ~ 胸肉をフォワグラと一緒にキャベツで包み、ベーコン風味のポレンタをトリュフでつくるタンバルの中へ

(洋食)

このパタンは、その末尾が言いさしの形で終わっているものや、客に対するもてなしのことばが添えられているものである。また、「蒸して」「一緒に...包み」「つくる」など調理の過程を示すことばが使われており、その1文が料理名でもあり、かつ調理の方法を示しているものでもあるといった、おそらく今までには見られなかった新しいタイプの料理名である。したがって、文章調の形を成しているものが少なくない。また、このような非常に長い料理名が名付けられるのは、と同じくほとんど洋食である。

和食の料理名はその約9割が基本パタンであった。和食の場合はベーシックなものが多いのである。よく言えば奇を衒ったところがない、悪く言えば代わり映えがしないとも言える。一方、洋食では、基本パタン以外が約6割であり、料理名の長いことが大きな特徴としてあげられる。では、なぜ、洋食の料理名は長くなるのか？

例えばメニューを見たとき、一般的に言って、和食の場合、「鰻の落とし」と書かれているだけでイメージが広がってよく分かる。「淡路産鰻の湯引き牡丹仕立て、梅肉添え」としたところで、料理に対する魅力に、それほど大きな違いは生まれない。ところが、洋食の場合、「牛肉のステーキ」と「神

戸牛の燻製岩塩を使ったロースト、トリュフ風味のソースベアルネーズで」と書いた料理が並んでいれば、分かりやすいのは前者だが、料理としては後者に魅力を感じるだろう。

私たちは、洋食に対して、未知なるものに対する憧れのような意識をもっているのではないか。つまり、自分が知らないという新しさに魅力を感じるのである。そこで、料理の作り手側も当然、その新しさを演出しようとして、形容語や添え書きを加える。その結果、長い名前になるのである。

しかし、この未知なるものへの憧れは、視点を変えれば、“洋”に対するコンプレックスとも言えよう。洋に対する感覚や態度の未成熟さ、あるいは洋を受け入れる懐の浅さが、説明をふんだんに盛り込んだ長い料理名を求めさせると考えられる。

だれに使うの？なぜ使うの？女子大生ことば

(LCりぼーと2 1994年11月)

女子大生ことばや若者語が、テレビや新聞にしばしば取り上げられることがある。「アッシー君」や「イケイケ」、あるいは「超～」といったことばが、若い人たちによく使われているというのである。女子大生たちは、これらのことばをどのように使っているのだろうか。次のA、Bの2つの視点に立ってアンケート調査を行った。

A「だれに対して使うのか」	B「なぜ使うのか」
父親	会話のテンポが良くなる
母親	ノリがいい
親しい友人(女性/男性/両方)	気持ちが良く伝わる
親しくない友人(女性/男性/両方)	かっこいい
(将来)会社の同僚	自分も使いたい
(将来)会社の上司	自分は使いたくない

調査対象者は武庫川女子大学の学生で、259人から回答を得た。

調査でとりあげたことばは、下に示す13語で、これらは『すきやねん 若者語辞典 - 梅花女子大生のことば - 』(米川明彦、1993年)で「よく使うことば」として取り上げられているもの20語のうちから選んだ。

朝一、般教、終わっている、ぶっちする、けばい、すっぴん、爆睡、きしょい、オタッキー、プー太郎、イケイケ、超～、お茶する

これらの各語について、選択肢の中から当てはまるものをすべて選んでもらい、結果を集計した。以下に、その結果を示す。

だれとの会話で使うか **親しい友達に/母親は仲間/父親は論外**

下の図1を見てみよう。これは、「だれとの会話でよく使うか」について、

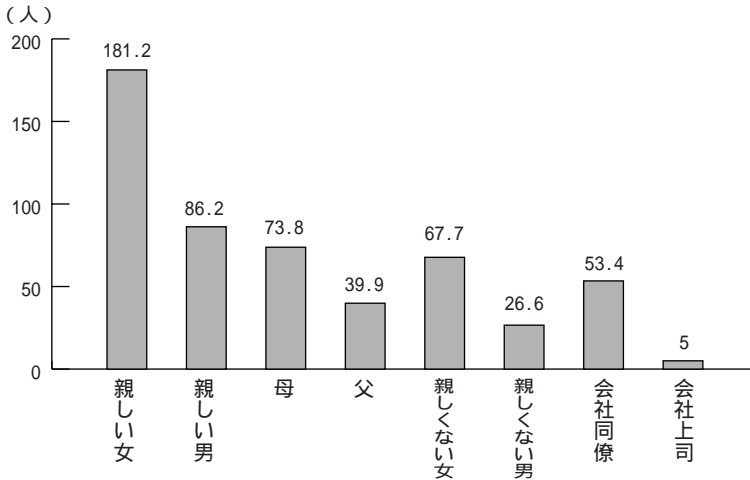
13の語の平均を示したものである。これから、次のことが見てとれる。

親しい女友達が圧倒的に多い。それに親しい男友達はその半分ぐらいで追っている。親しくない友達との差は歴然。

母親がかなり高い数値であることが注目される。それに比べて父親はいかに少ないか。親しくない女友達よりも低い。

会社の同僚は父親以上の数値。上司は最低。

図1 だれとの会話で使うか



まず、の親しい友達に対する使用が多いことから、女子大生ことばが親しい仲間の中で使われるものであることが確認できる。逆に言えば、こうしたことばを使うほど親しい関係にあると推測することもできる。

そう考えると、の母親の数値が高いことから、母親が女子大生にとって心理的に身近な存在で、母親との会話が、量的にも多くて質の点でも高いと推察される。子供と母親とが親しいのは当たり前と思われるかもしれないが、25年ほど前の“断絶の時代”を思い浮かべると、時代の変化の大きさを感じずにはいられない。もっとも、他方の父親のほうは昔と変わらず、いや、ひょっとすると、昔以上にひどい状態にある。娘にとって父親は、母親とは比べものにならないほど離れており、その位置は、親しくない女友達以上に遠いのだ。

また、の実社会に出たあと、会社同僚に対しては使ってもいいが、上司には使うべきではないとの意識がある。同僚の場合は仲間として会話することを想定し、上司とはフォーマルな会話を想定しているのであろう。女子大生ことばをインフォーマルなことばとして認識していることのあらわれだと思われる。

なぜ、使うのか テンポよく&気持ちを伝える

そのことばを使う理由では、たとえば「会話のテンポが良くなる」という回答をした人は、13語のうち最も少ないもので37人、多いほうは74人であった。これを表にすると次のようになる。

理由	選んだ人数の最低～最高
会話のテンポが良くなる	37～74
ノリがいい	17～49
気持ちが良く伝わる	20～149
かっこいい	0～9

これから、女子大生ことばは、どのことばもだいたい「会話のテンポがよくなる」という要素をもっているが、語によって、気持ちが伝わりやすいものとそうでないものがあるらしい、と言えそうである。

「理由選択の2タイプ」「けばい型」と「ぶっち型」

そこで「気持ちが伝わる」という理由に着目して、理由の選択パターンを分類してみた。すると、おおまかに2つのタイプがあるようだ。次の図2、3である。

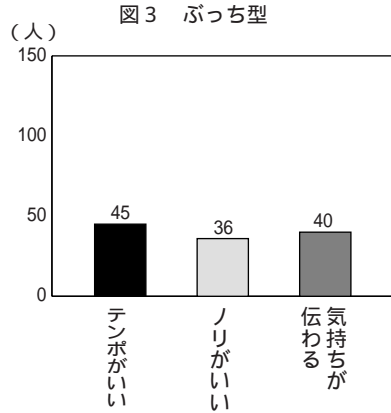
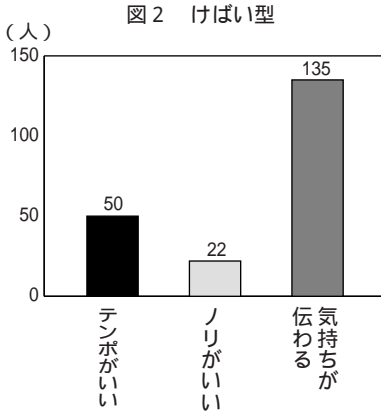


図2は、「けばい」のケースだが、「気持ち伝わる」が突出しているタイプである。一方、図3は、「ぶっちする」の場合で、「気持ち伝わる」がそれほど多くなく、3つの理由の差が比較的小さいタイプである。図2を「けばい型」、図3を「ぶっち型」と呼ぶことにして、13の語を両タイプに分類すると、次のようになる。

- 「けばい型」
 - けばい 爆睡 終わってる すっぴん 朝一 きしょい
- 「ぶっち型」
 - ぶっちする お茶する オタッキー プー太郎 イケイケ 超～ 般教

使いたくないことば 「ぶっち型」

次に、「使いたくない」という回答の多かったことばを調べた。その結果、次のようになった。

使いたくないことば
(61人以上が選択した語)

1	ぶっちする	107人
2	オタッキー	89
3	超～	80
4	きしょい	73
5	イケイケ	72
6	お茶する	71

これを先の「けばい型」「ぶっち型」と比較すると、「きしょい」を除いて、「ぶっち型」ばかりである。「気持ちが伝わる」を重視しない「ぶっち型」は使いたくないということになる。それだけ「気持ちが伝わる」が、女子大生がことばを使うときの大事な要素だということであろう。

嫌われながらも仲間内で使ってしまうことば

ところで、女子大生ことばが仲間内のことばとすれば、親しい女子大生の間だけで使うのが最も“女子大生ことばらしいことば”ということになる。そこで、「親しい女友達に対してだけ使うという人の比率」を調べた。その結果、その比率が30%を超えることばは、次の5語であった。

1	ぶっちする	46.8%
2	お茶する	43.1
3	爆睡	36.8
4	超～	31.9
5	イケイケ	31.3

をつけた4語が、上の使いたくないことばと重なっている。このことから、使いたくないと嫌われる一方で、仲間の間では使ってしまう。それが女子大生ことばの本質の一面なのであろう。

ことばにまつわる笑い話

(LCりぼーと14 2002年2月)

言語文化セミナー(2001.11.28開催)の報告

言語文化研究所では、毎年1回「言語文化セミナー」という会を開いています。この会では、ある一つのテーマについて講師の先生にお話しいただき、参加くださった学内外の人たちと、ことばについて、さまざまな角度から考える場となっています。

今年度は、野村雅昭先生(早稲田大学教授)においでいただき、落語の表現とユーモア」というテーマでお話しいただきました。お話は、落語のビデオを使い、その表現分析を通して、おかしさの仕組みをあきらかにしようというユニークなものでした。分析の対象となったのは、十月の初めに亡くなった古今亭志ん朝が演じる『火焰太鼓』。志ん朝の話術に潜むユーモアを、野村先生は、文体ならぬ話体のレトリックとして明快に分析してくださいました。さらに、志ん朝とその父、志ん生との違いといった話も織り交ぜて話され、落語好きの参加者には一層興味深い話となりました。

学外からは五十名近い参加者がありましたし、本学の学生の中には、落語を見るのが初めてで楽しかったと話してくれた人もいました。そのほか、「落語の表現を分析するおもしろさを知った」「ことばのもつ力について考えさせられた」などの感想も頂戴しまして、日本語の力を分析することが目的の当研究所としては、わが意を得たりという思いがいたしました。

さて、このように、今年度のセミナーは、落語を題材として、参加者の人たちと、普段とは違った角度から笑いをとらえる機会となりました。

では、わたしたちの日常生活の中での笑いはどうでしょうか。ことばにかかわることで笑った経験は、だれにでも一度や二度あるのでは…。

今回のリポートは、「ことばと笑い」という、身近な題材がテーマです。言い間違いや聞き間違いあるいは思い込みといった、ことばにまつわる笑い話を、LC倶楽部*の人たちから募集しました。その結果、24名の方から、約70件の笑い話をいただくことができました。名言・迷言、さまざまな内容です。その寄せられた体験談の中から、いくつかをご紹介します。

聞き慣れないことば・特殊なことば

<知識の間違い>

- ・小学生の時、「玄人はだし」のことを「くろうとは出し」「苦労と裸足」と語の区切りを間違えて暗記していた。
- ・「頌春」を「こうしゅん」だと思い込んでいた。こうしゅんと入力しても変換されないので馬鹿なワープロだと思っていた。
- ・合従連衡（がっしょうれんこう）を「ごうじゅうれんこう」だと確信していた。
- ・小学生のころ、友人が「耳鼻咽喉科」のことを「じびおえつか」と読んでいた。
- ・後輩が校正作業をしていて「私儀」を「わたくしぎ」と読めず、「“しぎ”ということばは辞書に載っていない。仕儀あるいは私議ではないか」と注が入っていた。

<言い間違い>

- ・バイトでお客さんに「ひや」と言われて、カウンターで「おひや」と丁寧に言ったつもりが、酒 水に変わっていて怒られた。同じ酒なのに「かん」と「ひや」と「冷酒」があって難しい。

<聞き間違い>

- ・小学校2年生の女の子がビデオの時代劇を見て、「お漬物って悪いの？」と聞くので、ビデオを巻き返すと、殿様が「この、うつけ者めが」と家来

*LC倶楽部：現在55名。一般の方々と、ことばを通して交流をはかる場です。会員の方には刊行物の送付やセミナーなどのお知らせをしています。現在会費無料です。

を叱っていた。

<その他>

- ・禿げた人のことを「はげちゃびん」と言ったら、6歳年下の男の子は「何それー」と言って笑い出し、年の差を感じた。

ことわざ・慣用句

<知識の間違い>

- ・「気のおけない仲」というのを仲が悪いことだと思っていた。
- ・旅行に行きたい中学生の女の子が、「かわいい子には旅をさせよ」とことわざを持ち出して両親に迫ったらしい。
- ・兄が中学生の時、「船頭多くして船山に登る」ということわざを「船山（ふなやま）に登る」と家で叫んでいた。
- ・「骨折れ損のくたびれもうけ」の事を、「骨折れゾンビのくたびれもうけ」と思っていた。

こども

- ・長男が幼稚園に上がる前のころの話。台所でお手伝いをしていて、母親に「　　をオープンに入れてちょうだい」と頼まれた。二つあるオープンのうち大きい方に入れようとして、母親からそちらではなく小さい方のオープンに入れるよう言われたところ、「こちらはコーブン」だと言った。
- ・長男の幼少時、一緒にお風呂に入っていたところ、「その草は何？」と、自分にはないものについて尋ねられ、吹き出したことがあった。
- ・長男の幼少時、池の水面の虫を指して「あれ何？」と聞くので、「あめんばよ」。すると「僕とおんなじ？」。(甘えん坊だったので、みんなからそう言われていた)
- ・幼稚園くらいの時、「暑中お見舞い申し上げます」ということを「しょっちゅうお土産あげます」ってどういう意味？と聞いて大笑いされた。
- ・子どものころ、自動販売機の事を「じどうはんばえき」と言っていた。駅前にあるから…。

- ・小学校３年生位の時、ラ行とダ行の区別がつかず「レコード」「ドーナツ」「ラジオ」など、濁点のあるなしを「どっちのレ？」と尋ねていたらしい。
- ・カタカナが読めるようになった園児の孫が、「オスメスランチのポスターが出てたよ」と言う。確かめると「店長のオスメスランチ」だった。

外国語・外国人留学生

- ・母「ディズニーシーができたんだって」。わたし「えっ？じゃあ、ランドがA？Bってあったっけ？」。母「はあ？シーって海のことやで」。
- ・映画「シックスセンス」を友だちの前で「シックスセンテンス」と大きな声で言ってしまった。
- ・終戦後、中学生だった私に進駐軍のアメリカ兵が、持っていた弁当箱を指して「これは何だ」と聞いた。「ライスボックス」だと答えると大笑いした。Riceは米だが、Liceはしらみの意味で、LとRの発音の違いだった。
- ・日本語学校で「新聞」のふりがなが「あたらふん」となっていた。
- ・留学生が郵便局の窓口で小包の中身を聞かれ、「これは本です」と答えた。後で「先生、このセンテンスを使うのは教科書以外で初めてでした」。

音が似ていることは

<聞き間違い>

- ・「財務省」と「外務省」を聞き間違えて会話が通じないことがよくある。
- ・JRの車内で「乗り降りはお前の方に続いて順序よく…」を「お料理は前の方に続いて順序よく…」と聞き違えた。
- ・母が妹と電話をしているときに、妹が「今、ワッフル買ってるから…」と言ったのを「今、マッスル買ってるから…」と聞き違えていた。
- ・岸田さとしの歌で「morning morning君の朝だよ…」というフレーズを、母は「操み操み君の肩だよ」に聞こえると言っていた。

音の転倒

- ・友人が「御無沙汰」のことを「ごぶたさ」と言っていた。

- ・友人は「その店なら行ったトコある」「あそこも前行ったトコある」と「こと」と「とこ」を取り違えて覚えていて、何度か違うよと言ったが意に介していない。

敬語

- ・就職活動中、人事の人に話するとき、敬語を意識しすぎて「おやりになられていらっしゃる」などと敬語を過剰に使ってしまった。
- ・店で「お持ち帰りですか？」と尋ねられて「はい、お持ち帰りです」と自分に対して敬語を使ってしまった。

その他

< 読み間違い >

- ・トラックなどの車体に書かれている社名など、右から読むのか左から読むのかで読み間違える。右から左に「コープの健康食品」と書かれているトラックを見て、「プーコの健康食品」という店があるのかと思い、「違うわ～」と気がつく。「人間もやし」を「もやし人間」と読んだ。どうやら、同じ文字種をまとめて読み、その後、異文字種の語を合成し、全体を読んでいるようだ。
- ・秋になり、「秋本番」ということばを目にすると、「秋本」姓の我が家では「あきもと ばん」という人物の事かと思ってしまう。

< 双方の解釈の違い・方言 >

- ・小中学校時代、とてもかわいいことを「バリかわいい」と使っていて、どこでも通じると思っていたら、中学の修学旅行でバスガイドさんに「バリって何かが割れた音なんですか」と言われた。
- ・知人宅でご馳走になり、デザートに大好きなみつまめが出た。いかがですかと問われ「いやー結構ですなー」と答えたところ、下げられてしまった。
- ・祖父が「アイスでも買って来るわ。何がいい?」と聞いたので「モナカの」と答えたら、和菓子のモナカを買って来てくれた。「アイスモナカ」と言えばよかった。

- 私が調理した夕御飯を「いい加減にできている」と言ったら、妻も次男も「よう出来ていて、これはいい加減じゃない」と言う。いい加減の解釈は、私（熊本出身）は、加減がいい（加えたり、減らしたりの調整がうま出来ている）ことの意味だったが、二人はでたらめな出来栄えと受け取った。
- 幼いころ、徳島のおばさんに「そこたっという！」と言われ、しばらくおばさんが指さしたドアの前で立っていた。方言で「ドアを閉める」ことだったらしい。

<その他>

- 国語学の演習中に「オトン」「オカン」と「オジン」「オバン」ということばが問題になり、このような省略形は「オカアハン」「オバハン」という形から生まれたのではないかという考えが出され、「オジハン」という言い方はしないという指摘などもあった。そして、みんなが並んで順番を待っているのに平然と列に割り込んで来るのが「オバハン」という定義（？）が出されてから、それぞれの語形の違いにひとしきり話がはずんだ。

笑いの性質を分類するには、ややデータが少なかったというのが反省点です。全体的には、ことわざや慣用句を含めて、聞き慣れないことばや特殊なことば、外来語、難しい漢字などが勘違いのもとになりやすいようです。また、こどものことばには、その柔軟で突飛な発想に、おかしさが認められるようです。

ことわざ好きのことわざ意識

(LCりぼーと15 2003年2月)

2002年11月26日(土)、本学に於いて「第14回事ことわざフォーラム」が開催されました。例年、言語文化研究所では「言語文化セミナー」を主催していますが、今年度はその拡大版として、ことわざ研究会と共催で行ったものです。

午前中は研究発表、午後は平曲の語りの後、シンポジウムが行われました。シンポジウムのテーマは「ことわざと比喩」。比喩研究のオーソリティーである中村明先生(早稲田大学)がまず話してくださり、続いてことわざ研究会の伊藤高雄会員、鈴木雅子会員が発表し、その後参加者との質疑応答、活発な議論が行われました。

学外からは、ことわざ研究会会員、LC倶楽部会員、日本語研究者などの参加があり、ことわざが持つ意味の奥深さ、おもしろさを再認識する時間を共有しつつ、盛会の内に幕を閉じました。ご参加くださった皆様に、改めてお礼申し上げます。

わたしたち現代人は、ことわざをあまり使っていない気もしますが、それでも知らず知らずのうちにことわざを使っているようです。昨年のノーベル賞受賞者、田中耕一氏の記者会見でも「寝耳に水」といったことわざが使われていました。

よく使うことわざ = 好きなことわざ、あまり使わないことわざ = 嫌いなことわざ、というような、単純な図式は成り立たないかもしれませんが、読者の皆さんにもひとつふたつ、気になることわざがあるのではないのでしょうか。そしてそれは、どんなことわざですか？

当研究所では、フォーラム参加の皆さんに、「あなたの好きな(嫌いな/気になる)ことわざは何ですか」といった質問をしました。ことわざに興味を持っている人たちが、ことわざに対してどのような意識を持っているのか

を探ろうと考えたのです。質問では、好きなことわざ、嫌いなことわざ、気になることわざをそれぞれあげてもらい、その理由についても述べてもらいました。

日本語の豊かな表現法の一つであることわざが、ことわざをよく知る人たちの意識の中でどのように捉えられ、位置づけをされているのか、その一端を垣間見てみましょう。

以下に、アンケートの内容をまとめたものを示します。

好きなことわざとその理由

- 「弘法も筆のあやまり」

人間は間違ふことの多い毎日を送っている。そんな日々の中でこのことわざを言われるとホッとする。(50代 女)

子どもにミスを指摘された時は、目くじらを立てて争うのも大人気ないので、このことわざでさらっと次に移ることにしている。(60代 男)

- 「思い立ったが吉日」

なかなか行動に移せない時の教訓になる。(20代 男)

勉強を始めるのに年齢は関係ないと励まされる。(50代 男)

- 「かわいい子には旅をさせよ」

両親と離れることで両親の大切さが分かる。(20代 女)

- 「Mlima haikutani Binadamu hakutana」(スワヒリ語 山と山は出会わないが、人と人とは出会うものだ)

人間関係に勇気を与えているから。(30代 女)

- 「人事を尽くして天命を待つ」

自分ひとりの力ではどうにもならない時の心の助けになる。(30代 女)

- 「明日は明日の風が吹く」

まさにその通り。なぐさめられる。(50代 女)

- 「苦あれば楽あり」

何でも苦労しないと本当の素晴らしさに気付かないと思う。(50代 女)

- 「七度の餓死にあうとも一度の戦にあうな」

従来のことわざ観をくつがえすような思想を持つことわざ。(50代 男)

- 「朝起きては銭のことを言わず」

このことばに出会ってから、我が家では午前中はお金のことを話題にしないことになっている。(60代 男)

励まされたり、勇気を与えられたり、ホッとしたり、なぐさめられたり、心の助けになったり…。自分を力づけてくれるもの ことわざ好きの人たちは、ことわざにそんな力が潜んでいると感じているようです。

また、何かを始める際のきっかけや、自分の気持ちを納得させたい場合にもことわざが役に立っていると言えそうです。

嫌いなことわざとその理由

- 「出る杭は打たれる」

気にしていると疲れる。他人と一緒にだと安心し、他人と違うことをすると変わっていると言われる日本の風潮が納得できない。(30代 女)

若い時にめげずに、もっとしたい事をしてくればよかった。(70代 女)

- 「楽あれば苦あり」

苦しい時に聞くのはいいが、楽の時に聞くとうんざりする。(30代 女)

- 「雄弁は銀、沈黙は金」

おしゃべりばかりで、言うべき時に言わない人や風潮が嫌い。(40代 女)

- 「負けるが勝ち」

弟や妹とケンカをすると叱られ、いつもこのことわざを言われた。

(40代 女)

- 「今日できることは明日にのばすな」

あまりに教訓的。また、せかされているようでイヤ。(50代 女)

- 「秋なすは嫁にくわすな」

2つの意味があるようだが、嫁と姑の関係が前面に出ているから。

(50代 女)

- 「地獄の沙汰も金次第」

金が全てを支配しているようで嫌い。(60代 女)

- 「一寸先は闇」

気をつけるようにとのことだろうが、希望が持てない。(60代 女)

- 「年寄りの冷や水」

自分が年寄りになってきたから。(50代 男)

- 「となりに倉が立てば腹が立つ」

貧しくても、なぜそうなるのか見なおす心をもちたい。(60代 男)

- 「馬の耳に念仏」

現代っ子は周りの大人が忠告しても聞く耳を持たない。(60代 男)

頭から押さえつけられるようなことわざ、教訓的な意味合いが強いことわざ、精神の自由がないような意味を持つことわざが嫌われる傾向にありそうです。

「出る杭は打たれる」(30代女/70代女)、「苦あれば楽あり」(好き50代女)、「楽あれば苦あり」(嫌い30代女)などのことわざの捉え方は、年代によって違いが表れていると言えそうです。

気になることわざとその理由

- 「好きこそものの上手なれ」

何かを始める時には大事な気持ち。(30代 女)

- 「百聞は一見にしかず」

自分の目で確かめ事実を見ることがおもしろい。(30代 女)

- 「年寄りの冷や水」

祖父がよくこのことばを使っていた。(50代 女)

- 「取ったら取られる」

自分は他人から取ったこともないのに、スリなどに遭う。(60代 女)

- 「人間至る処青山あり」

サラリーマン人生で何度もこのことわざにだまされた。(50代 男)

- 「河童に水練を教える」

明治以降の新作ではないか。(50代 男)

- 「付和雷同」

日本人の主体性のなさなど、日本を誤った方向に走らせそうだ。

(60代 男)

- 「たなからばもち」

今の子どもが好きなことわざで、子どもの実態をよく表している。

(60代 男)

気になることわざには、好きなことわざ、嫌いなことわざ、自分の人生に縁が深い、あるいは思い出があることわざなどが寄せられました。

ことわざには、間違った意味に解釈されているものが少なくありません。「情けは人のためならず」「エビでタイを釣る」などがその代表的な例です。しかし、ことわざ好きの人たちは、間違ったことわざよりも自分の身近にあることわざを気になるものと捉えているようです。

好きなことわざには、ほかに「急がば回れ」「一石二鳥」「案ずるより生むが易し」などが、また、嫌いなことわざとしては、「言わぬが花」「住めば都」などがあげられていました。

2004年12月24日 印刷

2004年12月31日 発行

編 集 者

武 庫 川 女 子 大 学
言 語 文 化 研 究 所

発 行 者

武 庫 川 女 子 大 学
西 宮 市 池 開 町 6 番 4 6 号

(非 売 品)

印 刷 所

大和出版印刷株式会社
神戸市東灘区向洋町東2・7・2